

Domaine Ponkotsu

新着ワイン情報



おやすみなさい 2018 (ロゼ泡)

巨峰の発泡。新たに塩山小屋敷のカベルネフランが少量入っている。そして、悲しいことに「おやすみなさい」のもっとも大きい畑であった「休息」が、急遽地主さんに返却することとなってしまい、大幅に生産量減となってしまった・・・

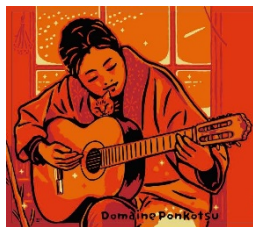
今回は、メインとなる巨峰系のブドウをプレスし発酵させたところに、メルロー、カベルネソーヴィニヨン、カベルネフランをプレスし合併。残糖が適切な値となるまで発酵させ、一度澱引きをして瓶詰め。前年が辛口に仕上がっていたのに対して、今回はほのかな甘みを感じ、多めの濁りからの旨味を感じる優しい味わいに仕上がっている。

上岩崎 (かみいわさき)：甲州市勝沼町上岩崎。棚仕立て。品種は巨峰。

小佐手 (おさで)：甲州市勝沼町小佐手。棚仕立て。品種は巨峰、ピオーネ、甲斐路、デラウェア、甲州。

藤木 (ふじき)：甲州市塩山藤木。垣根仕立て。品種はメルロー、カベルネソーヴィニヨン主体。

小屋敷 (おやしき)：甲州市塩山小屋敷。ジェノヴァダブルカーテン及び棚仕立て。品種は甲州とヴィニフェラ。



まどぎわ 2018 (醸し)

今回2度目のリリースとなる「まどぎわ」。前回は透明感のあるピュアで伸びやかな白ワインだったのに対し、今回は一転スパイシーで複雑な味わい。発酵中の甲州とデラウェアに、あとから収穫した甲州と少量のソーヴィニヨンブランとシャルドネを房ごと浮かべ、ほのかなMCと醸しのニュアンスを付与し、香り高く仕上げている。

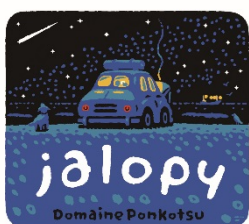
小佐手 (おさで)：甲州市勝沼町小佐手。棚仕立て。品種は巨峰、ピオーネ、甲斐路、デラウェア、甲州。

狐原 (きつねばら)：甲州市勝沼町上岩崎狐原。棚仕立て。品種はデラウェア、甲州、ヴィニフェラ少量。

小屋敷 (おやしき)：甲州市塩山小屋敷。ジェノヴァダブルカーテン及び棚仕立て。品種は甲州とヴィニフェラ。

山田 (やまだ)：甲州市上岩崎山田。棚仕立て。品種はデラウェア。平地。

善光寺 (ぜんこうじ)：甲府市善光寺。棚仕立て。品種はデラウェア、甲州。



ジャロピー 2018 (醸し)

今年はデラウェアに加えて、ピノグリとプチマンサンを少量使用している。製法は、醸し終盤のデラウェアにピノグリを房ごと漬け込み3日後にプレス。その際に一緒にプチマンサンも房ごとプレスしている。前年よりもろみの温度を下げる事ができ、健全な状態で醸しを行うことができた。

ヴィンテージの影響もありふくよかさのある味わいだが、少量しか入っていないヴィニフェラが良く効いていて、冷涼感のある香りと酸があり、今までで一番伸びやかな構成に仕上がっていると感じる。タンニンが量的にはあるが滑らかで、口の中が乾くような印象はない。年々品よく仕上がっていく jalopy だが、今後徐々にヴィニフェラの比率が上がっていく計画で、さらなる進化が期待できる！

内藤（ないとう）：甲州市上岩崎内藤。棚仕立て。品種はデラウェア。平地。

狐原（きつねはら）：甲州市勝沼町上岩崎狐原。棚仕立て。品種はデラウェア、甲州、ヴィニフェラ少量。

水口（みずぐち）：山梨市水口。棚仕立て。品種はデラウェア。

善光寺（ぜんこうじ）：甲府市善光寺。棚仕立て。品種はデラウェア、甲州。

小屋敷（おやしき）：甲州市塩山小屋敷。ジェノヴァダブルカーテン及び棚仕立て。品種は甲州とヴィニフェラ。

ヴィンテージ情報 生産者コメント

2018 山梨（峡東エリア）

2018年は春に雨が多い年であった。特に3月5月は前年に比べて2倍以上の降水量があり、病気は出なかったが、防除のタイミングにかなり気を遣った記憶がある。またここ数年の傾向だが梅雨入りしてからは空梅雨になり、かなり早い段階で梅雨明け宣言がでて、そして、明けた後また降る日が多くなった。

一方夏は暑く、8月の平均気温は前年に比べると1℃高く、日照時間も80時間以上多い年であった。総降雨量も多かったことから、暑い一方で少雨が何日も続いた昨年とは異なり、少ない回数で多雨であったと言える。

収穫が8月後半になったデラウェアは果実がしぼみ、剪定を強くしたことも受けて減収となった。巨峰は糖度が24を超えた畑もあり、総じて出来は良かったのだが、畑を一部返却した分は減収。甲州は昨年より増収であったが、9月の多雨により糖の上昇は鈍く病気は出なかったものの、期待したほどの熟度は得られなかった。ヴィニフェラは9月の多雨で割れが生じ、シャルドネはほぼ壊滅。プチマンサンは熟度の伸びが遅く、収穫時期も含めてまだまだ改善が必要と感じた。



2018/5/12 勝沼町上岩崎狐原 甲州